

わんしょた音声作品

『クールできびしい、たまにちょっとやさしいお師匠さまと、森の庵で淫遁生活』脚本

04.モンスターの毒でピンチ！・フェラチオで大量浄化射精

場所:魔女の庵

//主人公には目もくれず、目の前の何かに没頭している...といったイメージで
.....あら？ 帰ってきたのね、おかえりなさい。
薬草、今日は言われた通りに採ってこられたかしら？

//ヒロインは相変わらず前を向いている。主人公がその横を通る.....という場面
.....そ。
じゃ、いつもの場所にしまっておきなさい。
他の薬草と混ざってしまわないようにね。

そうそう、今夜の食事のことだけど.....

.....！？
ちょっと、待ちなさい！

あなた.....何があったの？
隠さないで。
そんなに顔を赤くして.....病気ではないわね？
魔物？ それとも毒性のある植物にでも触ったの？

とにかく、身体を見せてごらんなさい。
いいわね？ 服をめくるわよ？

.....！ やっぱり.....

下腹部から胸にかけての、葉脈状のアザ.....菌類に侵されているわね。
まだ根を生やしてはいないみたいだけど.....

護符は？色が薄れている？
時間による劣化ではなさそうだし.....ひょっとして、森が活性化している？

ねえ、もしかして森の西に行った？

.....そう。マイコニドの群生地に近づいたのね。
煙のようなものをかけられたのでしょうか？
そしてそれを吸い込んでしまったのだと.....

そう言えば、今が繁殖の季節だったわね。
この森に住んでいると、時間の概念が薄れてしまうから……
うっかりしていたわ。

……いい？ あなたが吸い込んだのはマイコニドの孢子……
巨大なキノコ状の魔物が持つ、毒のようなものね。

彼らはこの時期、
繁殖のために近くを通りがかった動物に孢子を浴びせるの。

孢子に寄生された動物はその運び屋となり、
広範囲をさまよいながら孢子をばらまき、
やがて自身も苗床となり朽ち果てる……
わかる？ あなた、今とても危険な状態なの。

……………いいえ、謝ることはないわ。
むしろ、あなたに預けていた護符の力が
弱まっていることに気づかなかった私のミスよ。
ごめんなさいね。

ふふっ……あのキノコ共、やってくれたわね。
よりもよって、この私の大切な弟子に手を出すなんて……

ここ数年、生息地が少なくなってきたから、
この森に隠れ住んでいる分には大目に見てあげてきたけど……
今度こそ容赦なく焼き払って、根絶やしにしてあげなきゃ……♡

……………あら？
そうそう、今はこちらをなんとかしなくてはね。

……ふふ。そんなに不安そうな顔をしなくてもいいわよ？
たしかにマイコニドの寄生は、普通ならとても危険な症状だけど……

忘れたの？
あなたは当代一の大魔女と謳われた、この私の一番弟子なのだから。
かならずなんとかしてあげる……だから安心しなさい？ ね？

……………うん、いい子ね♡
それじゃ、寝室に行きましょうか……

場所: 主人公の部屋

ほら、しっかりつかまって？
まだ歩けるわね？
はい、上手よ……いち、に♡ いち、に♡

//マイクに口を近づける
んしょ……ほら、ベッドに寝させるわよ？
ゆっくりでいいからね……

んしょ……

……ふう。
大丈夫？ 苦しくないかしら？

……そう、よかった。
それじゃ、今から治療を始めるのだけど……

ふふっ……そのままジッと、ね？
今からズボンを脱がせるから……

もう、嫌がらないの♡
これは必要なことだから……ね？
『お師匠様』の言うこと、聞けるわよね？

……うん、いい子よ。
じゃ、腰を上げて……？

んしょ……んしょっ……

……ふう。
うん、思った通り。
わかるかしら？ あなたの睾丸……キンタマ袋ね？
それが、パンパンに張っているの。

これがマイコニドの増え方……
オスの精子に自分の胞子を寄生させて、
射精とともに広範囲にまき散らして繁殖するの。

寄生された睾丸は、次から次へと精子を作ろうとするから……
すぐに中身がパンパンになって、腫れあがってしまうのよ。

ほら……あなたも、普段とは違う気分でしょう？
キンタマの中で精子を大量生産させられて、

ずっしり重くなったタマタマから、
ギューギューに詰まった塊みたいなザーメンを
ビュルル～……ビュルルル～～～って、
吐き出したがっているの。

……ふふ。恥ずかしがらなくてもいいのよ？
これはあなたが特別エッチな子なのではなくて、
寄生した胞子がそう思わせているだけなのだから……♡

……ん？ じゃあどうすれば治るのかって？
くすっ……答えは簡単。

寄生された精子をみいんな出しきって、
キンタマを空っぽにしてしまうの♡

……ん？ そうね、普通はそんなことをしたら大変ね。
自分が暮らす環境に、魔物の胞子をまき散らすことになるんだもの。

でも、私はすべての術理を修めた魔女……
これくらいの治療はなんてことはないわ。

//見初めた＝みそめた

……ね？ あなたが見初めた『師匠』を信じなさい？

……ふふっ、いいお返事♡
それじゃ、始めましょうか？

……ん、しょっと。
はあい、あなたはベッドに寝そべったまま、ジッとしているのよ？
私を信じて……私に身を委ねなさい？
怖いことなんて、なんにもないからね♡

じゃ、患部に手を触れるわよ……？
んっ……

あは……真っ赤に腫れあがった睾丸、
ずっしり重たくて、ギッチギチに詰まってる……♡

張りがあって、いつもの何倍にも肥大化していて……
どう？ こうやって下からタプタプさわっているだけで、
精子が漏れてきちゃうんじゃないかしら？

//分泌＝ぶんぴつ

……ん？ ふふっ、いいわよ、気持ちよかったら声を出しても。
快感を覚えるのは当然だわ……
胞子に寄生された精子が射精を促すために、
激しく快感物質を分泌しているんだもの。

だから、まずは恥ずかしいという思いは捨てなさい？
自分の心をさらけ出して、感じるままに声を上げて……
快楽に任せて、ビュービュー射精して？

タマタマにつまった毒が、全部外に出るまで
いっぱいいっぱい気持ちよくなって……。
私が、そのお手伝いをしてあげるから……ね？

ふふ……モミモミ、モミモミ♡
……最初はこれくらいの強さがいいかしら？

くすっ、すごい弾力……、
プリプリのキンタマが、私の指を押し返して来るわ？
いい子ね……悪い精子を出してしまおうと、
がんばって抵抗しているのかしら……

ふふっ……がんばってえ♡
これは必要なことだからね？
こうやって、キンタマを指いっぱいモミモミされながら……
がんばって、気持ちよくなるのよ？

ふう……ふふっ……ん……ふう……ふう……
はあ……はあ……ふう……ふう……ふう……

……あは♡
ビンビンに勃起したおちんちん……
こっちも触ってあげないと、気持ちよくなれないわよね？
ほら……タマタマ揉みながら、手コキもしましょうね……♡

ふっ……♡ ふっ……♡ ふっ……♡ ふっ……♡
ふっ……♡ ふっ……♡ ふっ……♡ ふっ……♡ ふっ……♡

んふ……
サオとキンタマ、一緒にされるのいいみたいね♡
袋の中身が、キュッて上がって……
手のひらの中で、ビクンッて暴れたわよ？

ほら、気持ちいいの？ 気持ちいいなら出してしまいなさい？

ガマンしていても辛くなるだけだからね？

ふふっ、そうそう♡

どうせこの後、何回も射精しなければいけないのだし.....

早漏で、いっぱいイッて.....声も精子も、いっぱい出してしましましょうねえ.....♡

ふっ.....ふっ.....ふっ.....ふっ.....ふっ.....

イキそう？ いいわよ、射精して.....

イク時は、ちゃんと言うのよ？

.....なんでかって言うのね？

こうするから.....ああ〜〜〜ん.....

.....あむっ♡

じゅるじゅるじゅる.....んふ♡

ほら.....イキなさい？

.....っ！！

んぶっ.....！？

ん.....んっ.....んん〜〜〜〜〜っ.....！

んぐっ.....んぐっ.....んぶっ.....！

.....んっぐ♡んっぐ♡

.....んくっ♡ んくっ♡ んくっ♡ んくっ.....♡

.....ぶあっ.....♡

けほっ.....けほ♡

.....ほら、あ〜ん♡

口の中、見える？

あなたの精子、みいんな飲んでしまったわ.....♡

.....ん？ 何を慌てているの？

ふふっ、心配いらないわ。

私の身体には、特別な魔法をかけているから.....

こうして体内に取り入れて、変質した精液を無毒化しているの。

これが私の治療のやり方よ.....

ね？ 安心したかしら♡

さあてと.....ここからが大変なところよ？

性的な刺激を受けて、繁殖できる環境が整ったのだと勘違いした胞子が、

さらに精液を作ろうと活発になるはずだから.....

それが追い付かないくらいの速さで、
あなたもがんばってお射精しないとね。

.....ふふ、怖がらなくても大丈夫。
治療はぜんぶ私に任せていいから.....
あなたはただ気持ちよく、
悪いおセーシ、ヌキヌキしましょうね.....あむ♡

じゅるっ♡ じゅぶっ、ちゅぶ、ぐぶぶぶ.....
じゅっぶ♡ じゅっぶ♡ じゅっぶ♡ じゅっぶ♡

.....ぶあっ♡ ふふっ.....ドロドロしたの、まだ出てくる。
中に残ったの、いったん吸い取ってあげないとね.....♡

ぱくっ.....んむ.....ちゅるるるっ.....♡
んむ、んむ.....じゅるっ、ずろろろろっ♡♡♡
んぐ.....ごく.....ごく.....ごく.....

んふ.....きれいになった♡
くちゅくちゅ.....これでまた、次の精子が出せるわね.....
ぐっぶ♡ ぐぶっ、ぐぶっ、ぐぶっ、ぐぶっ.....♡

んん.....ぐぶっ、ちゅび.....じゅぶ、じゅぶ、じゅぶ♡
ふー.....♡ んんん.....ぐぶっ、れるれるれる.....
んぐっ.....じゅっぶ、じゅっぶ、じゅっぶ、じゅっぶ、じゅぶ.....♡

.....？ ちゅぽっ♡
ふふ.....そんな目をしないで、わかっているわ。

タマタマの中、こうしている間にも
ギュンギュン精子が作られていて、
気持ちよくウズウズしてたまらないわよね？

出したばかりなのに、もうパンパンに張って熱を帯びて.....
かまってあげないと、切なくなっちゃう.....♡

ちろっ.....だいじょうぶ。
こっちも忘れてないからね.....ちゅっ、ちゅ♡
今度はキンタマモミモミしながら、
お口でヌイてあげる.....♡

れろっ.....じゅぶぶぶぶぶ.....♡♡♡
んむっ、んむ.....ん～.....ふふっ♡

じゅっぶ、じゅぶ、じゅっぶじゅっぶじゅっぶ.....
んん〜.....？ じゅっぶ.....じゅっぶ.....じゅっぶ.....♡

ちゅぽっ.....痛くない？
.....んふ、いいみたいね。
これなら、もっと強くしても平気そう.....♡

はあむっ.....んっ、ん.....ぐぶぶぶぶ.....
んん.....ぐっぽ.....じゅぶっ、じゅぶっ、じゅぶっ、じゅぶっ♡
じゅぶっじゅぶっじゅぶっじゅぶじゅぶっ♡

んんっ.....んぐっ.....♡
じゅっぶ、ちゅぽちゅぽちゅぽ♡
ふー♡ ふー♡ れるれるれる.....♡
じゅっぶ、じゅぶじゅぶじゅぶじゅぶっ♡♡♡

.....ぶあっ♡
くすっ.....ど〜お？
私のよだれと、あなたの先走りが垂れてきて.....
キンタマ袋、ヌメヌメになってしまったわね。

モミモミするたびに、グチュグチュって
いやらしい音を立てて.....
興奮しちゃうわね？ れるれる.....♡

これだと指が滑って握りづらいから.....
もっと強くモミモミしてあげるわね？
だいじょうぶ♡ 痛くなんかしないから.....ぱくっ♡

//フェラ再開。

じゅっぶじゅっぶじゅっぶ.....♡
れるれるれる.....ふー.....♡ んんん.....
ぐっぽ、じゅぽっ♡♡♡
ふー♡ ふー♡ ふー♡ ふー♡
んむっ、じゅるじゅるじゅるじゅる.....
じゅぽっじゅぽっじゅぽっじゅぽっじゅぽっ♡

んぶ.....ほら、出なさい.....？
遠慮なんか、しなくていいから.....
じゅっぽ、じゅぶぶぶ.....♡

ふー.....ふー.....ふー.....んんん.....

ほら、このままお口のなかで.....
わるいセーシ、みんな吸い出してあげるから.....♡

じゅっぶ、じゅっぶじゅっぶ.....ずぞぞぞっ♡
ほら、いらっしゃい？ イッていいからね.....
れるれるれる.....じゅるじゅるるる〜〜〜.....♡♡♡

//射精

んんんん〜〜〜.....つつ♡♡♡
じゅるっ♡ じゅるるる.....♡♡♡
ごくっ、ごく、ごく、ごく.....

ちゅう、ちゅう、ちゅるっ、んんっ.....
ごく.....ごく.....ごく.....んむ.....♡

//もうほとんど出尽くしたのに、まだ吸っている

ちう.....♡ ちう.....♡ ちう.....♡ ちう.....♡
んく.....んく.....んくっ.....んく.....んく.....

//口離す

.....ちゅぽんっ♡
ふう.....はあ.....はあ.....はあ.....♡

飲んじゃった.....さっきよりも、もっと濃くてドロドロに熟成されて.....
のどに絡みついて、飲みにくくなったこどもザーメン.....
量も多くて、おなかがタプタプになってしまいそう♡

ふふ、さすがにキツくなってきたかしら？
でも、毒はまだまだ抜けきってないからね.....
がんばっておちんちん硬くして、
どんどんお射精していきましょうね.....♡

ん〜.....？ ふふっ♡
タマタマ、まだ大きくなったままね？
さっきと比べたら、少しは腫れも引いてきたみたいだけど.....
いつもの可愛いサイズには戻っていないみたいね。

.....そーだ♡
だったら今度は、こちらを重点的に可愛がってあげるわね？
.....あ〜〜〜む♡

うむっ.....♡ じゅっぶ.....もごもごもご.....♡

んむんむ.....ちう~~~~~っ♡

ちゅぽんっ♡ ふふっ.....あは♡
やっぱりすごく効くみたいね、タマフェラ♡

そうよね、今もフル稼働で精子を生産している.....れろっ♡
快樂の中樞部分なんですもの.....れるれるれる♡
いつもより、余計に感じてしまうわよね？

れる~~~~っ.....ちゅっ、ちゅ♡
ふふっ、どう？
乱暴に触られたら痛くてたまらない男の子の急所を.....
れるっ、れろ.....唾液でたっぷり湿らせた、年上の女性の舌で、
優しく、優しく舐められるのは.....じゅるっ、れるる.....♡

.....ふふっ♡ 声がどんどん高くなっていくわね。
オチンチンが魔物に寄生されたことなんて、
もう忘れてしまったのかしら？

それとも.....『師匠』のおクチ治療が気持ちよすぎて
そんなのもうどうでもよくなってしまった？

くすくす.....まあ、どちらでもかまわないわ。
一人しかいない、かわいい弟子のためですもの。
タマタマにもた〜っぶりご奉仕して.....れろっ♡
いっぱい、いっぱい気持ちよくして.....ちゅっ、じゅる♡
必ずあなたを助けてあげるからね.....♡

あもっ.....♡
もぐもぐもぐ.....ちう♡ ちうちうちう♡
んん.....ふふ♡

もご.....もごもご.....じゅぷっ、ちゅるる.....♡
んふう.....♡ ふー♡ ふー♡ んんんん、じゅる.....じゅる.....♡

もぐもぐ.....じゅる.....？
んふ.....サオのほうも、またビンビンになってきた♡
お手ででシコシコも、一緒にしてあげるからね♡

んむ、んっ、んっ、んっ、んっ、ちゅむっ♡
もぐ.....ん、ぐぷっ、ん、ん、ん、ん、んっ♡♡

もご.....れるれるれる.....

んむっ、ふー、ふー、ふー、ふー……ぐぷ、ちうちうちう……
んっふ♡ れる、れる、れる、れる、れる、れる……♡♡♡

ぷあっ……はあ……はあ……あっは♡
タマもサオもすごい反応……♡
おくちと指、どちらでされるのがいいかしら？

れるっ、れるれるれる……ふふ♡
どちらも好き……そうよね？

くすくす……♡
あなたは気持ちいいことをされると
抵抗できずに悦んでしまう、マゾ弟子だもの……♡

れろっ、ぴちゃぴちゃ……
どちらも、たくさん可愛がってあげるから……
いい声で鳴いて、空っぽになるまで
ザーメン出し尽くしてしまいなさい♡

あもっ♡ もごもご……もぐ……
じゅぱっじゅぱっじゅぱっ♡

んふ……こうして、口の中で……
タマタマを転がされるのがいいのかしら？

ちゅぱちゅぱちゅぱ……んふ……♡
今度は、片方ずつかわいがってあげようかしら……

ちゅっ……それじゃ、最初は右のタマね？
ちゅっぱ、ちゅぱ……もぐもぐもぐ……
んふふ……れるれるれるれるれるれる……♡

……ぷあっ♡ それじゃ、今度は左のほう……ああむ♡
もごもご……じゅずっ♡ ずずずずず……♡

もぐ……ふー……ふー……んぐんぐんぐんぐ……♡
……♡♡♡ じゅっぱ、じゅっぱ、ちゅっぱ、ちゅっぱ♡

ちゅぽっ♡ はっ♡ はっ♡ はっ……♡
出そう？ 出るのよね？
お口の中で、タマタマがキュッて上がったわ？

ふ……♡ ふ……♡

いらっしやい、あなたの好きな時に.....
はっ.....は.....♡

また飲んであげるからね？
今日だけは特別よ.....
私のおクチ、好きなように使っていいから♡
ちゅぶっ.....ちゅば、ちゅば、ちゅばっ♡

ほら.....あ——ん♡
私の舌の上、思う存分出しなさい♡

はっ.....♡ はっ.....♡ はっ.....♡
ほら、ここね？ おクチ開けて、見ていてあげるから.....
あなたのおちんちんの先っぽから
ネバネバの精子が、おしっこみたいに噴き出るところ.....

ほら.....ほら.....ほら.....♡
はっ.....♡ はっ.....♡ はっ.....♡ は.....っ♡♡♡

//射精

んあんっ♡ きゃ.....ん、もう.....♡
ああむっ.....じゅる.....ちゅう、ちゅう.....♡
ごくっ.....ごく.....ごく.....ごく.....ごく.....

んっぐ.....んぐ.....ふう、うんぐっ.....
ごきゅ.....ごきゅ.....ごつきゅ.....
んぐ.....ごく.....んく.....んく.....んく.....んく.....

.....ふー.....ふー.....ふー.....ふー.....ふー.....♡

.....ちゅぽっ♡
ふう〜〜〜.....

もう、誰がおクチ以外に出せと言ったの？
『師匠』の顔を、ベトベトに汚してしまって.....悪い子ね。

.....くすっ♡
ウソよ。気持ちよかったのだものね。
少しくらい粗相をしても、大目に見てあげるわ。

オチンチンも、おつかれさま.....
ツラかったのに、いっぱい射精ができて
えらかったわね.....ちゅっ♡

タマタマのほうは……？ うん。
まだ少し腫れぼったいけど、順調にお搾りできているようね。
これならあと何回か抜いたら完治するはずよ。

ふふ……ひとまず少し休憩にして、残りは後にしましょうか。
あなたも、だいぶ疲れているようだし……
待っていて。タオルを持ってくるから。

……つしょ。

……ん？ 顔についた精子は、危険じゃないのかって？
ふふっ、そうねえ。
普通であれば、念入りに処理して廃棄しなければいけないところだけど……

私にそんな心配は無用だわ。
そうね……『マイコニドの胞子に寄生された精液の、貴重なサンプル』として
瓶にでも入れて保管しておこうかしら。

……ちゃっかりしてる？
あらあら、そんなことを言ってしまうていいのかしら？

まだ治療は終わっていないのだから、
私の機嫌を少しでも損ねたら……

……くすっ、冗談よ。

この後も、タマタマが空っぽになるまで
気持ちいいフェラ抜き治療をしてあげるから……
いい子にして、おとなしく待っていなさいね？

//END